

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 8 月 10 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284115

研究課題名(和文)「ユダヤ自治」再考 アシュケナージ文化圏の自律的特性に関する学際的研究

研究課題名(英文) Rethinking "Jewish Autonomy": Interdisciplinary study on autonomical aspects of Ashkenazy Jewry

研究代表者

赤尾 光春 (Akao, Mitsuharu)

大阪大学・文学研究科・研究員

研究者番号：90411694

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：当科研プロジェクトの総括として、2016年6月11日から12日にかけて、専修大学にてシンポジウム「ユダヤ人と自治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡」を開催した。報告者は8名の科研メンバーに加えて研究協力者3名(うち1名は海外からのゲスト)。二日間約60名ほどの参加者があった。

同シンポジウム終了後、各報告に議論を踏まえた修正と加筆を加え、論文集にまとめた。論文集は『ユダヤ人と自治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』というタイトルで、2017年3月に岩波書店より刊行された。執筆者は10名、4部から成る全11章構成(総ページ数は342ページ)。

研究成果の概要(英文)：On 11th and 12th of June 2016, we held symposium entitled "Jews and Autonomy: Rise and Fall of Diaspora Community in Central and Eastern Europe and Russia." After the symposium, we published collection of articles "Jews and Autonomy: Rise and Fall of Diaspora Community in Central and Eastern Europe and Russia" from Iwanami publishing company in March 2017.

研究分野：ユダヤ文化研究

キーワード：ユダヤ ディアスポラ 自治 ロシア ソ連 東欧 中欧

1. 研究開始当初の背景

申請者は、ディアスポラ現象の比較研究も視野に入れつつ(『ディアスポラから世界を読む』2009年)、近現代のユダヤ人社会における宗教伝統と政治運動との関係についての研究を進めてきた。具体的には、ユダヤ教超正統派とシオニズム運動との間で展開されてきた「真正な」ユダヤ人アイデンティティをめぐる「文化闘争」(Kulturkampf)の変遷を辿りながら、前近代的な宗教規範と近代的な国民意識との間の弁証法的な緊張関係を跡づけてきた(『シオニズムの解剖』2012年)。

その途上で着目したのは、西欧近代で発達した政教分離や自由主義の原理に対するユダヤ社会の両義的な反応である。すなわち、超正統派はそこに自治の剥奪の契機を見て抵抗したのに対し、ユダヤ人の多くはこれをむしろ歓迎し、シオニストらはこの原理の徹底化を通してユダヤ社会の新たな自律性の創出を試みたという、近代以降のユダヤ社会に見られる矛盾した傾向である。

共同体的自治の固執・喪失・再創出というこの複合的プロセスの同時的把握は、近現代ユダヤ社会を包括的に理解する上で不可欠であるとともに、ディアスポラ全般の問題の理解にも示唆を与えるものと考え、自治という視角からユダヤ社会を再考する共同研究体制の構築に思い至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ユダヤ人の問題を、共同体的自治(Autonomy)という観点から捉え直し、近代国民国家への包摂と排除のモデルでは捉え切れない、ユダヤ社会の自律性の諸相を明らかにすることである。故国喪失からイスラエル建国まで、ユダヤ社会は政治的機能をもたず、専ら宗教的共同体であり続けたという通説に抗し、ユダヤ人共同体が領土的独立(independence)なしに保ち続けてきた一定の社会・政治的自律性、すなわち自治の次元を描きだし、その原理を解明する。

ユダヤ文化に内在的な観点に立てば、そもそも宗教と政治や世俗の区別は存在しない。西洋思想に特有の政教分離のバイアスに留意しつつ、より実態に即したユダヤ人共同体像の提示を通して、マイノリティやディアスポラをめぐる問題を再考するための新しい比較の枠組みを提起する。

3. 研究の方法

研究対象の時代と地域を限定してもなお、対象となる言語や地域の多様性は著しく、研究に求められる観点もまた多様性である。そこで、本研究で取り扱う問題系を一定の連関

に収めるため、宗教的自治、法的自治、社会・経済的自治、文化・政治的自治というサブ・グループを設け、それぞれの領域に関心の近い研究者を配置したうえで研究全体を推進してゆく。

この分業体制の下、各グループに関する研究会を年に4回ほど開催し、ユダヤ自治に関する知識や見解の共有を図る。研究会は可能な限りオープンなものとし、本研究グループ外のユダヤ研究者だけでなく、自治問題に詳しい研究者も随時招くなど、学際性を高める工夫をする。

研究成果は、1)論集の公刊、2)海外学会におけるセッション(ワークショップ)の開催、3)海外研究者を招聘してのシンポジウム等の機会を通じて発表する予定である。

4. 研究成果

当科研プロジェクトの総括として、2016年6月11日から12日にかけて、専修大学にてシンポジウム「ユダヤ人と自治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡」を開催した。報告者は8名の科研メンバーに加えて研究協力者3名(うち1名は海外からのゲスト)、二日間約60名ほどの参加者があった。

同シンポジウム終了後、各報告に議論を踏まえた修正と加筆を加え、論文集にまとめた。論文集は『ユダヤ人と自治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』というタイトルで、2017年3月に岩波書店より刊行された。執筆者は10名、4部から成る全11章構成(総ページ数は342ページ)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計27件)

野村真理、ナチ支配下ウィーンのユダヤ人移住におけるウィーン・モデルとゲマインデ、ユダヤ・イスラエル研究、査読有、28号、2014年、24-34頁

赤尾光春、水面下の代理戦争 ユダヤ・ファクターから見たウクライナとロシアの動向、査読無、現代思想、2014年、42-10号、110-128頁

向井直己、ユダヤ・ナショナリティと無国籍 第一次大戦後のユダヤ移民、ナマール、査読有、19号、22-34頁

野村真理、ユダヤ人ネットワークの実像と虚像 「世界イスラエル連合」から『シオン賢者の議定書』へ、東欧史研究、査読有、38号、2016年、73-79頁

西村木綿、両大戦間期ポーランドにおける
イディッシュ世俗学校運動の生成と展開
文化的民族自治、イディシズム、学校共同
体、査読有、2015年、37号、3-18頁

西村木綿、民族の「自治」とは何か ユ
ダヤ人「ブンド」の問いをめぐって、社会思
想史研究、査読有、2015年、39号、131-149
頁

〔学会発表〕(計 39 件)

宮崎悠、戦間期ヨーロッパにおけるマイノ
リティ問題と歴史観 ポーランド=ユダ
ヤ関係を中心に、日本国際政治学会、2014年
11月15日、早稲田大学

赤尾光春、東部戦線とユダヤ人 S・ア
ンスキー『ガリツィアの破壊』(1920年)に
描かれたロシア・ユダヤ関係の両義性、日本
ロシア文学会、2014年11月2日、山形大学

Naoki, Mukai, Heinrich Graetz's
Kohelet: Historiography and Commentary,
Congress of European Association for
Jewish Studies, 2014.7.24, Paris Sorbonne
University

後藤正英、ユダヤ教と二つの近代 改革
派ユダヤ教とモダン・オーソドックス、日本
宗教学会、2016年9月11日、早稲田大学

〔図書〕(計 10 件)

高尾千津子、ロシアとユダヤ人 苦悩の
歴史と現在、東洋書店、2014年、63頁

赤尾光春・向井直己(編) ユダヤ人と自
治 中東欧・ロシアにおけるディアスポラ
共同体の興亡、2017年、360頁

Yuu Nishimura and Mari Nomura (eds.),
Yiddishism and Creation of the Yiddish
Nation, Kanazawa University, 2017, p.205

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤尾光春 (AKAO, Mitsuharu)
大阪大学・文学研究科・招聘研究員
研究者番号：90411694

(2) 研究分担者

高尾千津子 (TAKAO, Chizuko)
東京医科歯科大学・教養部・教授
研究者番号：00247264

向井直己 (MUKAI, Naoki)

京都大学・人間・環境学研究科・研究員
研究者番号：00725400

野村真理 (NOMURA, Mari)

金沢大学・経済学経営学系・教授
研究者番号：20164741

宮崎悠 (MIYAZAKI, Haruka)

北海道教育大学・教育学部・講師
研究者番号：40507159

後藤正英 (GOTO, Masahide)

佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号：60447985

恒木健太郎 (TSUNEKI, Kentaro)

専修大学・経済学部・准教授
研究者番号：30456769

西村木綿 (NISHIMURA YUU)

金沢大学・学内協同利用施設等・研究員

(3) 連携研究者

鶴見太郎 (TSURUMI, Taro)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：00735623

(4) 研究協力者

ベル・コトレルマン (KOTLERMAN, Ber)
バル=イラン大学・准教授

山本伸一 (YAMAMOTO, Shinichi)
バル=イラン大学・客員研究員